

令和3年度綾部市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

水田面積は耕地面積の約87%を占めており、水稻を中心に、麦、小豆などの土地利用型作物や野菜、茶、畜産などの各種の作物を組み合わせた複合経営による農業が行われている。

近年、水稻の作付面積はおおむね横ばいで推移しており、加工用米等の生産拡大によって需要に応じた米の生産がされてきた。一方で、担い手不足や農業者等の高齢化により、耕作放棄地の発生がよりいっそう懸念されている。

耕作放棄地を発生させず水田を有効活用するためには、平成29年産並の水稻生産を維持しつつ、担い手農家への集約や、新規需要米を含む需要のある作物生産への転換を同時に推進していく必要がある。

農地集積については、「京力農場プラン」を策定し、中核的な担い手や認定新規就農者へ農地集積を図り、人と農地の問題を解決していこうとする集落・地域が増えている。

農地中間管理機構を活用して担い手への農地の集積・集約を図るほか、創意工夫に富んだ農業経営者が存分にチャレンジできる環境を整備するとともに、地域農業の強化、耕作放棄地の解消を図ることが必要である。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の需要が減少傾向にある中、水田の高収益化を図るためには、飼料用米、米粉用米、WCS用稲、新市場開拓米、加工用米の新規需要米と、高収益作物である野菜類、小豆に加えて小麦の生産拡大を図っていく。

新規需要米のうち、飼料用米・WCS用稲・米粉用米については需要先とのマッチングや、専用品種の種子確保、生産コスト削減について産地交付金を活用し推進する。

加工用米については、需要先から生産拡大が求められており、交付金を活用することで経営安定化を行い、特に需要のある「京の輝き」は面積と収量を確保する。

新市場開拓米については、需要が見込める新たな項目として産地交付金を活用しながら新たな海外販路の開拓を行い、取組拡大を図る。

高収益作物である野菜類については、機械や施設の導入コストがかかり、取組面積がほぼ横ばいで推移している。他の支援施策とも連携しながら、京のブランド産品に登録されている品目を中心に産地形成に努める。

小豆については、需要者から大幅な生産拡大を求められているものの、自然災害や鳥獣害等に大きく影響を受けやすく、安定した収穫量を維持することができていない。確実に面積を確保し、生産技術と品質の向上を図りながら、引続き生産振興を図る。

小麦については、豆類、野菜等と組み合わせてより合理的な輪作形態の推奨を行う。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本市の基本方針は、水田を維持しつつ、主食用米の面積を一定確保しながら、新規需要米や野菜等の高収益作物など地域の実情に応じた取り組みを推進していく。

その中で、麦や大豆、そばなどの畑作物や本市の地域振興作物である茶や栗の生産拡

大に向けて農業者から要望があれば基盤整備も視野にいれつつ関係機関や産地地域と協議を進め検討する。

農地の作付状況について、水田台帳等を用いて定期的に点検し、地域の意見をまとめた京力農場プランなどに基づき、高収益作物等への転換及び畑地化の必要性を含めて、将来の農地活用方法について検討を進める。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

農業者の高齢化等により水稻生産を取りやめ、保全管理のみ行う農家の増加が懸念される。耕作放棄地の発生防止には、一定程度の主食用米生産も必要であり、その中で消費者ニーズに対応した売れるコメづくりを進める。

減農薬・減化学肥料で取り組む特別栽培米や、生産資材や栽培方法にこだわる良食味米で高品質な米づくりと、多収品種や直播栽培等コスト削減を図る米づくりを共に推進する。

(2) 備蓄米

現時点では、取組者がなく取組面積も無い。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

実需者への出荷や養鶏農家との直接契約による出荷の2パターンの生産形態があり、いずれも収量確保のために、まずは多収品種の導入を推奨する。

イ 米粉用米

現時点では利用量が少なく面積換算値も小さいため、利用先の拡大・米粉製粉機械等の導入について地元と検討を進め、米粉生産量の拡大を図る。

ウ 新市場開拓用米

個人農家において、主食用米の流通の中で主に自家加工販売用の取り組みが数件ある。海外販路開拓等の輸出用米などの取り組みを推進する。

エ WCS用稲

専用機械を活用しながら、担い手を中心に働きかける。

また、生産要望に応えるため畜産農家とのマッチングを関係機関と連携して取り組む。

オ 加工用米

府内酒造業界からの需要がある加工用米については、主に農協等への出荷であり、交付金も活用しながら収量を確保することで生産者の所得向上につながる。市内全域で面積を確保するとともに、担い手を中心に働きかけて、「京の輝き」の生産拡大を行う。

(4) 麦、大豆、飼料作物

ア 小麦

小麦は、水稻作との田畑輪換により、土地・労働力・機械施設の有効活用を図ることができる。また、豆類、野菜等の組み合わせにより合理的な輪作体系を構成できる作物であることを周知し、更なる推進を図る。

イ 大豆(黒大豆)

生産の低コスト化、品質の向上を一層推進し、栽培の定着化を図る。

生産組織による作付拡大を推進するとともに、ほ場条件、収穫時期、天候等に左右されない大豆・黒大豆づくりの推進を図る。

ウ 飼料作物

近年、飼料の高騰を受け、国内産の飼料作物の需要拡大が求められている。耕畜連携の強化、水田の未利用地の有効活用を推進し生産向上を図る。

(5) そば

新規生産者の増加は見込めないため、現状維持に努めるが、山間部に近い農地で生産され収穫皆無となる例も多いことから、鳥獣害対策を進め、面積を維持しつつ収量を確保する。

(6) 高収益作物

ア みず菜、壬生菜、賀茂なす、鹿ヶ谷かぼちゃ、えびいも、万願寺甘とう、紫ずきん、京夏ずきん、えだまめ、九条ねぎ

京のブランド産品として、高値販売が期待できる有利品目であり、土壌条件の適した地域への拡大を図る。

特に、万願寺甘とうや紫ずきん・京夏ずきんについては、重点推進品目として高品質、増産を目指し、生産技術の向上を図りながら、生産部会を中心に生産意欲を高め、所得向上につなげる。

イ ミニトマト

京都市場で評価の高いミニトマトは、収穫時期が長期間あり、小規模ハウスでも収益が上げられることから、定年退職者や女性を中心に推進する。

ウ えびすかぼちゃ

地域の高収益作物として重要な位置を占めている。地域の実情を考慮しながら共同作業による集団栽培を進め、作業負担の軽減により産地育成を目指す。

エ ふき

高齢化や担い手不足により、作物の作付けが難しい地域に、種子・マルチ等による栽培が確立されたふきの作付けを推進することで、遊休農地の解消と防止を図る。

オ いちご

施設栽培のいちごは、今後、高収益が期待できる品目として、高設栽培技術による作業の効率化の検討を図りながら、産地育成を進める。

カ 薬用作物

本市の地域振興作物として定着しており、需要も根強い。機械収穫による大規模栽培と手収穫による栽培があり、増収技術の確立、品質向上のため、排水改良や鳥獣被害対策、適期防除・適期収穫の徹底を図る。

キ 小豆

本市の地域振興作物として定着しており、需要も根強い。機械収穫による大規模栽培と手収穫による栽培があり、増収技術の確立、品質向上のため、排水改良や鳥獣被害対策、適期防除・適期収穫の徹底を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	1221.31	1200.00	1200.00
備蓄米	0	0	0
飼料用米	5.09	5.10	5.50
米粉用米	1.16	1.30	1.50
新市場開拓用米	11.85	12.00	14.00
WCS用稲	27.46	28.00	29.00
加工用米	30.70	35.00	40.00
麦	42.08	42.00	43.00
大豆	12.26	13.00	14.00
飼料作物	12.78	13.00	14.00
・子実用とうもろこし	0	0	0
そば	1.37	1.50	17.00
なたね	0	0	0
高収益作物	118.37	121.00	125.00
・野菜	28.95	30.00	32.00
・花き・花木	0	0	0
・果樹	0	0	0
・その他の高収益作物	89.42	91.00	93.00
畑地化	0	0	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	加工用米	加工用米作付規模 加算	加工用米面積 20a以上取り組んでい る農業者数/加工用米 生産農業者数	（令和2年度） 2,533a 14人/21人	（令和5年度） 4,000a 30人/40人
2	加工用米 （京の輝きの取組）	京の輝き作付規模 助成	京の輝き作付面積 取組者数	2,841a 21人	4,000a 35人
3	WCS用稲	WCS用稲規模拡 大加算	取組面積（全農業者） WCS生産に係る生産 コスト	2,545a 80,713円	2,600a 80,000円
4	WCS用稲 飼料作物	耕畜連携加算	資源循環 水田放牧	1,473a 73a	1,600a 90a
5	小麦の後に作付 した小豆（二毛作）	麦あと小豆生産助 成	麦あと小豆取組面積 取組者数	3,604a 8戸	4,000a 12戸
6	万願寺甘とう	万願寺甘とう生産 向上助成	万願寺甘とう出荷数量	92t	125t
7	紫ずきん・京夏ず きん	紫ずきん・京夏ず きん生産向上助成	紫ずきん・京夏ずきん 作付面積	1,052a	1,500a

8	野菜類	地域振興作物助成	野菜類作付面積	1,185 a	1,400 a
9	小豆	小豆基幹作付助成	小豆作付面積	4,778 a	5,400 a
10・11	小豆	小豆作付規模加算 ①	取組面積	357a	700a
12・13	小豆	小豆作付規模加算 ②	取組面積	1,851a	2,200a
14・15	小豆	小豆作付規模加算 ③	取組面積	4,887a	4,900a
16	小麦 (せときらら)	小麦品質向上加算	せときらら作付面積 平均単収	3,435 a 85 kg/10 a	3,900 a 100 kg/10 a
17・18	小豆	小豆出荷数量助成	小豆平均単収（交付金 対象のみ）	36 kg/10 a	80 kg/10 a
19	小豆	小豆出荷助成	作付面積	472 a	700 a
20・21	小豆	小豆有利販売助成	播種前契約を有する小 豆の生産面積	5,592 a	5,700 a
22・23	黒大豆、小豆	豆類経営安定化助 成	作付面積 黒大豆、小豆	8,079 a 827 a	8,300 a 870 a
24	野菜類	野菜作付規模加算	野菜類の10a以上作付 面積	1,055 a	1,250 a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。